令和６年度
宝塚市　認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

１　認知症地域支援推進員：６名（R7.3月末時点）

２　認知症地域支援推進員の役割

- 地域にある様々な見守り資源・ネットワークの強化と深化
- 認知症の人の声をもとに、暮らしやすい地域づくりを進める

報告者氏名：藤原　菜月　・　前川　喜代美
山岡　幸織　・　中島　香央里
片山　梨紗　・　外堀　佳代

宝塚市
認知症施策
全体図

普及・啓発の推進

＊認知症サポーターの養成と活動の場づくり
＊ステップアップサポーターの養成と活動の場づくり
＊小中学校、高校での認知症サポーター養成講座の実施
＊関係機関との協働での普及・啓発に対する取り組みの推進

適時・適切な医療・介護等の提供

＊いきいき百歳体操の普及推進
＊ふれあいいきいきサロン活動への助成
＊介護保険事業計画に基づく介護サービス基盤の整備
＊認知症ケアパスの積極的活用
＊阪神圏域認知症疾患医療センターとの連携の推進

認知症の人とその家族への支援

＊認知症カフェの活動支援
＊認知症の当事者・家族の思いや声を発信できる機会・場の充実
＊認知症の当事者・家族と介護関係者の情報交換の場づくり
＊認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施

認知症の人やその家族の視点の重視

若年性認知症施策の強化

＊障碍福祉課、障碍福祉関連事業所等との連携強化
＊ひょうご若年性認知症支援センターとの連携強化

高齢者にやさしい地域づくりの推進

＊たからづか地域見守り隊活動（宝塚市社会福祉協議会）との協働
＊宝塚市認知症高齢者等みまもり登録の活用
＊宝塚警察署との連携強化
＊宝塚市消費生活センター、防犯交通安全課との連携強化
＊高齢者の権利擁護に対する取組の推進

認知症があってもなくても暮らしやすい地域づくりに向けて（宝塚市）

認知症の方のつどい場づくり

宝塚市の現状として、認知症当事者同士が気軽に集まり、話ができる場所がない事が課題としてあがりました。

しかし、集える場所を作るためにも、まずは当事者が何を望んでいるのか、思いを知る必要があり、今年度は当事者の声を集めることを目指し、活動しました。

○当事者の声を集める

【方法】
- デイサービスへ訪問し、利用者や職員に聞き取る。
- オレンジカフェなど、当事者や家族が集まる場所へ訪問し、聞き取る。
- CMや相談員が訪問時などに聞いた声を集める。

〈聞き取った声〉
- 阪急百貨店で買い物がしたい。
- 編み物がしたい。
- お花を植えたい。
- クラシックコンサートに行きたい。etc.

〈実現するための活動を検討〉
- 阪急百貨店でのスローショッピングを進める。
- オレンジカフェで『認知症マフ』を作っている方々とつなぎ、一緒に編み物をするのはどうか。
- オレンジガーデンプロジェクトを行い、参加してもらうことで、花の手入れを一緒にする。

＊来年度に向けて＊
- 当事者が集まり話をする「本人ミーティング」を目標にするのではなく、当事者がしたい事や望んでいる事を実現できるような活動を行う。
- 当事者の声がなかなか集まらない。改まって聞くと話しづらかったりするのではないか。
  →デイ職員に協力を依頼し、日常の中で職員が聞き取った内容をメモに取ってもらい、共有する。

つながるオレンジ（昨年度からの活動の継続）

昨年度までに医師・歯科医師・薬剤師との連携に取組んだ。今年度は、本人と直接やり取りする機会のある事業所や金融機関との“つながり”強化をテーマに活動。地域における見守りネットワークをさらに深め、安心・安全・暮らしやすいまちづくりを目指すこととした。

日頃の“つながり”について

業種ごとに異なる見守りの現状を話し合い、ニーズにあった情報提供や情報交換を心掛けた。

“つながり”強化に向けて

■どのように事業所とより深くつながるか？
■日頃の業務の中で「あの人、大丈夫かな？心配だな」と感じた時に早期相談・情報発信してもらうにはどうしたらよいか？

たからづか地域見守り隊と連携を深めよう
※民間事業所の見守りネットワーク
278カ所登録(2024年度実績)

見守りのポイントを共有し、相談・連携の機会を増やしたい。

人命救助や支援に繋がることもあるため対応例を発信したい。

みまもり通信に見守りのポイントを掲載。

見守り隊事業所へ配布。

“つながり“強化のために

見守り隊の金融機関と連携

■本人も金融機関も、やり取りに困っている。
■金融機関の手続き以外にも困りごとがあるのではないか？不安を聞き、困っている本人に必要な支援を提案できるよう、つながりたい。

金融機関3店舗で福祉相談会
（予約制　個別相談）を実施

次年度に向けて

他事業所とのつながりを広げるために、媒体づくり（動画など）を行うなど、さらなる“つながりづくり”のための取り組みを検討中。

いつでも相談してもらえるよう金融機関とさらに連携を深めたい。

認知症サポーター養成講座

●住民を対象にした認知症サポーター養成講座を年に６回、地区ごとに開催。
多くの参加がみられ、認知症に対する関心の高さがうかがえた。

- 5/22：西公民館（27名参加）
- 9/25：東公民館（13名参加）
- 12/9：総合福祉センター（14名参加）
- 6/18：中央図書館（33名参加）
- 10/27：中央公民館（31名参加）
- 3/12：waiwaiコミュニティあいわ（18名参加）

●企業・事業所を対象にした認知症サポーター養成講座

・布亀株式会社デリバリーセンター
気になるお客様がいたときは見守っておられる。販売だけでなく、体調や気候のことで会話するようにしているとのお話があった。
・日本管財
市営住宅、県営住宅の巡回職員向けに実施。
・東和薬品
職員向けに実施。22名が参加。病院や薬局とのつながりはあるが、患者とはつながりがなく、薬がきちんと飲めているかどうか分からない、認知症の方が飲みやすい薬はどのような形状か、などの質問があった。
・宝塚阪急
日常業務の中で、すでに丁寧な対応をされている。→ お買い物支援にもつなげていく。
介護経験がある方が多かった。また、業務内のことだけでなく、自身の家族のことを考えるきっかけになったとのご意見もあった。

ステップアップサポーター養成講座

	内容
第1回 「知る」	・講義とワーク「認知症の人の心と関わり方」 ・認知症の人と家族のお話 ・実習についてのオリエンテーション
第2回 「体感する」	・体験実習 ・実習振り返りシートの記入
第3回 「深める」	・グループワーク「体験実習の振り返り」 ・実践報告 ・グループワーク「できる事から始めよう」

〇14名修了
〇参加者の声
・実習で「自分でできることは自分でしてもらう」ことの大切さを知った。
・認知症も、お一人お一人が違うことを知った。それぞれに合わせて対応されていた。
・ボランティアにもいろいろあり、自分にもできそうなことがあると思った。

ステップアップサポーター交流会

〈目的〉 ・活動を継続していくための情報を共有することができる。
・さらなる学びや活動意欲の向上につなげる。
・活動したい方と活動できる場がつながる機会をつくる。

座談会「認知症の介護　実際のお話」 令和7年１月２０日(月)　１４時～15時３０分
＊認知症のご家族を実際に介護された経験者として、医師でもある中馬氏による自身のお話や、参加者と語り合うざっくばらんな座談会
＊ステップアップサポーターの活動紹介

スローショッピング　in宝塚阪急

包括連携協定を締結しているご縁から、宝塚阪急でスローショッピングを実施してみよう！ということになりました。（7月8日、８月5日）

今年度はお試し実施で、市内の介護事業所の協力を得て、買い物したい人に店舗へ来ていただきました。（各回４～５人）

ご自分で選び、背伸びして取り出します。

お二人は、季節の果物選びに夢中です。相談の結果、食べきれるサイズのものを選ばれました。

品数の多さに驚かれています。

色とりどりで種類も豊富なお寿司売り場で、また迷います。

お支払いはゆっくりでOK。

スローショッピング　振り返り

・認知症の人は、どれを選ぶか迷うこと、自分で選ぶことの機会が少なくなっているとわかりました。
・日常であったはずの買い物が、非日常になってしまっていることを知り、このような機会を定期的につくっていきたいと思いました。
・果物やお寿司を通して季節を感じ、買い物が記憶の呼び起こしにつながった。
・２回目の買い物中に、１回目の買い物の話が出た時には、感動しました。

オレンジカフェ交流会

令和６年12月17日(火)、カフェの代表の方たちが各カフェの近況報告や他のカフェに聞きたいことなど、情報提供やみなさんと共有したいことを意見交換しました。

・おいしいコーヒーやお茶を淹れてゆったりと流れる時間の中で話ができ心安らぐように
・認知症の人やご家族がわいわいお話をする場となっている
・地域の人もお茶を飲んだり気軽に集えるような雰囲気に
・介護を終えられた家族の参加もあり情報交換や相談したりする場にもなっている

～～認知症の人や家族だけでなく、地域の人や誰もが気軽に参加できるカフェを目指し～～

　オレンジカフェは認知症の人と家族が心地よく過ごせる場、交流の場としてなくてはならないものですが、認知症でない人も気軽に参加できるカフェを目指し、各カフェが行っていることの中で良いもの参考になるものを共有しました。また、これから地域で開催を検討してくださる関係施設の方も参加し認知症カフェの広がりを感じる場となりました。

最後に・・・

当事者のしたいことを実現する場が、ステップアップサポーターの活躍の場にもなりそうです。
認知症があってもなくても、いきいきと過ごせる機会を増やしていきたいと思います。